

地域にうねり生む活動を

耕人塾 第10期生に28人 半年かけ人間力育む

中高生の間力を育む「耕人塾」（木村民男塾長）の第10期開塾式が22日、東松島市の矢本東市民センターで開かれた。本年度は石巻地方をはじめ、仙台市や登米市の10中・高校から新規18人を含む28人が入塾。「世界に誇れる石巻地域にしよう！発信！未来！未来へ〜」をテーマに、1年間「あいさつ・清掃・ごみ拾い＋1」を通し、自主性などを育む。



耕人塾は中高生の間力を磨き、地域社会に貢献する人材育成などを目的に平成24年度から始めた。活動は5〜6人のグループ活動とし、年間13回の講座で実践、体験、宿泊研修をこなす。大学生や地域の小中学校教諭らが教学委員として指導にあたる。

開塾式で、木村塾長は「世界に誇れる地域とは、住んでいて楽しい、幸せを感じるところ。その原点となるあいさつ、清掃、ごみ拾いには人間の徳が含まれる。多くの人の支援

10期目の節目となる耕人塾が始まった

で第10期までたどり着いた。グループ活動や実践活動を通じ、大きなうねりを地域に広げたい」と語り、主体性を呼び掛けた。本年度の内容説明の後、矢本一中の平塚真一郎校長が「未来を拓く」と題して講話。「入

塾の経緯はさまざまだが、決断したのは自分。目的意識を持って参加してほしい。何かをつかみ取るのは自分。プラスになるものをつかんでほしい」と塾生としての心構えを説いた。

今後は8月を除く12月まで毎月1回塾を開き、実践活動などを展開していく。閉塾式は12月18日となる。

【横井康彦】